

3

主な症状と対応のヒント

高次脳機能障害として見られる主な症状と日常生活での対応方法について、ご紹介します。

注意障害

じっくりと仕事に集中できないなどの注意の持続困難、作業が始まると他の人の声かけに適切に反応できないといった注意の分配困難などの障害です。

- 例
- ・ボーっとしている
 - ・火を消し忘れる
 - ・外部の音が気になって仕事に集中できない

対応例

- ・注意を維持できる時間を決め、その範囲内で作業を終わめます。
- ・休息を十分にとります。
- ・危険な場面に遭遇しないように環境を配慮します。
- ・作業はできるだけ静かな場所を設定します。



記憶障害

新しいことの記憶が困難、最近のことが思い出せない、約束ができないなどの障害です。

- 例
- ・昨日どこに行ったか覚えていない
 - ・約束を忘れる
 - ・仕事を覚えられない

対応例

- ・障害を補う補助具などの代償手段を取り入れ、何度も繰り返し練習すると習得できることがあります。
- ・カレンダーなどに予定を書き入れる習慣づけを行います。



遂行機能障害

日常生活や仕事の内容を計画して実行することの障害です。

- 例
- ・家事を計画的にこなせない
 - ・仕事のトラブルを解決できない
 - ・効率的に仕事をこなせない
 - ・物事の優先順位がつけられない

対応例

- ・仕事の内容を順序立てて掲示します。
- ・作業を単純化し、一つひとつをこなして次に進むようにします。



社会的行動障害

自分の行動や感情をコントロールすることの障害です。

- 例
- ・やる気がない、元気がない
 - ・引きこもりがち
 - ・怒りやすい、暴言、暴力
 - ・一つのことにとだわりやすい
 - ・後先のことを考えずに行動してしまう
 - ・感情が顔に出やすい



対応例

- ・突然の変化に対応しにくいことを周囲が理解します。
- ・感情がコントロールできず興奮している場合は、場を変える、あるいは話題を変えます。
- ・本人の意思や役割を尊重します。
- ・本人の好きなこと、できることを積極的に取り入れ、成功体験を増やすようにします。

半側空間無視

目の前の空間の半分（多くは左側）に注意が向かない障害です。

- 例
- ・食卓の左半分のおかずがわからず食べ残す
 - ・車いすの左側のブレーキをかけ忘れる
 - ・移動中、左側にあるものにぶつかる

対応例

- ・食卓では全体を見渡す習慣をつけます。
- ・車いすの移乗の際、片側のブレーキをかけるときは、言葉に出しながら行うことを習慣にします。
- ・左側は見落とししやすい（注意が足りない）ことを自覚するように繰り返し促します。



失語症

話す、聞いて理解する、書く、読むことの障害です。

- 例
- ・うまく話せない
 - ・思った言葉が出ない
 - ・字が読めない

対応例

- ・ゆっくり、わかりやすく、具体的に話します。
- ・長い文章は避け、短い言葉を使うようにします。
- ・ジェスチャーやメモを利用し、対応します。



失行症

麻痺はないのに、意図した動作や指示された動作ができなくなる障害です。

- 例
- ・はさみやフォーク、歯ブラシの使い方がわからない
 - ・洗濯機の使い方がわからない

対応例

- ・繰り返しの練習を勧めます。
- ・何ができて何が困難かを判断し、複雑な動作の場合は簡素化します。
- ・一連の動作の中で、できない動作のみを手助けしたり促したりします。



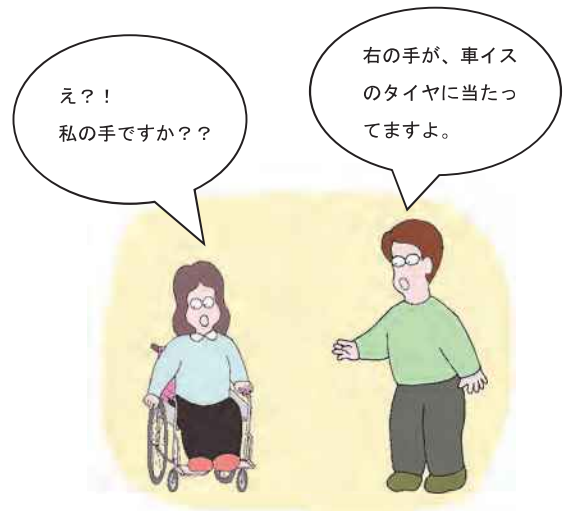
半側身体失認

身体の麻痺側への注意が払われなかったり、認識が低下してしまう障害です。

- 例
- ・麻痺している上肢を無視する
 - ・麻痺している上肢を自分の手だと認めない
 - ・麻痺があるのに自覚せず、立ち上がって転倒してしまう

対応例

- ・麻痺している手足を確認するような習慣を身につけてもらいます。
- ・麻痺している手を下敷きにして寝て肩を痛める、立とうとして転倒してしまうなどがあるので、繰り返し注意を促します。



地誌的障害

地理や場所がわからなくなる障害です。

- 例
- ・よく知っている場所で道に迷う
 - ・近所の地図が書けない、地図が使えない
 - ・目的地にたどりつけない

対応例

- ・一人で行動できる範囲を自覚してもらうことが大切です。
- ・道に迷ったときの対処法を話し合っておくこと、連絡先を書いたカードや携帯電話などを身につけておくことも大切です。
- ・家屋内での混乱に対しては、主だった場所に、文字や手がかりなどの目印（案内）を本人の視線の高さに設置するのも有効です。



失認症

見ているもの、聞いているもの、触っているものがわからなくなる障害です。

- 例
- ・よく知っている人の顔を見ても誰かわからない
 - ・電話で家族の声を聞いてもわからない
 - ・目の前に見えているものが何かわからない

対応例

- ・見て理解できない場合は、触れてみたり、音を聞くなど、他の感覚を使用することでわかりやすくなります。
- ・聞いて理解できない場合、筆談や手ぶり、ジェスチャーなどの工夫をします。

